小松獅子団の入城

1868年8月26日

慶応4年(1868)8月26日、『会津戊辰戦争』に、日光口総督山川大蔵(家老・23歳)は、松平容保の帰城要請を受け、田島から大内を経て小松に入る。小松の肝煎、大竹小太郎宅に入り、25日、城に入る計画を立てます。彼岸獅子の楽手10人(平均15歳)を選抜し、大川を舟で渡り、飯寺で隊列を組み、その後ろに4～50人の会津藩兵がつきました。材木町を進み、途中、川原町大橋付近にいた長州藩と大垣藩兵は、鉄砲を逆さにして眺めていました。米代一ノ丁から西出丸西大手門に隊列が入ると、会津藩兵とようやく気づき悔しがったのです。城内からは、歓声が上がった。獅子団は、死を覚悟し、9月23日に離れるまで城内にいました。

小松の女性は、老婆を除き、周辺にある雑木林内に隠れていました。明治4年2月27日、容保は御薬園に小松獅子団を呼び、この事を労い、頬掛けに葵紋の使用を許したのです。

図・写真・文 ©石田明夫 問合せ Fax 0242-24-3423 090-1378-8087
メール・ホームページ「会津歴史観光ガイド協会」で検索。